



就任を記念して全員で写真撮影

八鍬 太議長
山形県町村議会
議長会会長に就任

地域創生を学ぶ

山形国際交流プラザで、中央大学法科大学院教授・弁護士野村修也氏から「まちづくり・地方創生成功の力ギ」、政治ジャーナリストの泉宏氏からは「岸田新政権発足、どうなる衆院選とその後の政局展開」と題して講演をいただきました。

たいへん有意義な研修会となり、今後の議会活動に研修の内容を活かしていきます。

地域創生を学ぶ

議会のべり

10月4日	舟形町自治功勞表彰審査会 議会運営委員会
8日	議会広報常任委員会
15日	議会広報常任委員会
20日	県町村議会議員研修会 全員協議会
22日	議会地域活性化特別委員会 全員協議会
27日	産業振興常任委員会 川西町議会視察研修来町
11月1日	舟形町自治功勞表彰式
5日	舟形大蔵戸沢間道路整備促進期成 同盟会現地調査会
24日	総務文教常任委員会所管事務調査 議会運営委員会
26日	議会地域活性化特別委員会
27日	舟形町教育懇談会
30日	新庄もがみのランドマークを考える シンポジウム 議会運営委員会
12月2日	最上県勢懇話会
3日	全員協議会
7日	産業振興常任委員会所管事務調査 12月定例会（～9日）
17日	総務文教常任委員と 舟小PTA役員との意見交換会
20日	中央要望会（～21日）
23日	議会広報常任委員会

紙面の都合上、主な行事を抜粋し、掲載しています。その他、各議員が各地区行事等に参加しています。

**議会だよりふながたの
表紙写真を募集します。**

「議会だよりふながた」を、住民参加型のより身近な広報誌とするため、表紙の写真を募集します。

- 応募方法：**写真データを議会事務局へ持参するか
電子メールで送付してください。
- 問 合 せ：**舟形町議会事務局 32-0030（直通）
gikai@town.funagata.yamagata.jp

表紙のことば

舟形町恒例の新春町民なわとび大会が1月16日に、B&G海洋センターで行われました。今年で34回目の大会は、感染症対策として体育館の換気、アルコール消毒、マスク着用での開催となりましたが237名、16チームが参加しての大変熱気ある大会でした。改めてスポーツ少年団各種団体の団結力の強さを体感しました。今年一年みなさまにとって飛躍の年でありますようお願いしております。

次回の定例会は 3月2日(水)～10日(木)までの予定です。

産業振興常任委員会所管事務調査報告

園芸作物への支援策が必要

1. 期 日 令和3年12月3日（金）
2. 調査内容
- （1）米を中心とした農作物の価格下落の状況
- ① 水稻（主食用米など）の下落状況
- 下落理由：コロナ禍による消費の低迷。在庫過剰。
下落対策：生産の目安を守っている米の販売農家
に対し、主食用米及び加工用米、政府備蓄米の栽
培面積10aあたり3,000円を交付予定。
- ② 米以外で下落している作物
- 下落理由：例年と比較し、天候などの理由により、
他産地の出荷量が多いことや他産地の出荷期間が
長期化していることで、需給バランスが崩れ、単
価安となっている。
- ③ 所 感
- 米に関する下落対策はとられている一方で、町
が推奨している園芸作物5品目に対しては、支援
策がとられていない。今まで町が育ててきた園芸
作物なので今後も継続できる補助対策が必要であ
る。
- （2）桧原（太折）地区避難道路の現地調査
- ① 概算事業費の概要の説明
- ② 事業の背景・目的の説明
- ③ 所 感
- 町道にする予定だが、災害発生時に避難・救援
道路としてのみ活用し通常は閉鎖する考えている
ため、道路の管理体制を広域事務組合と分担する
形で検討を進めていただきたい。地元住民の意見
として道路新設に伴い、不法投棄や山林への侵入
などが懸念されるとのことなので対策が必要であ
る。当工事現場において、事故が発生している事
から安全対策の徹底に努めていただきたい。



徹底した安全対策を

総務文教常任委員会所管事務調査報告

タブレット授業を好評価

1. 期 日 令和3年11月24日(水)
2. 調査内容
- (1) 舟形小学校のタブレットの活用状況について
- (2) 日本一のおいしい給食食育推進事業について
3. 調査状況
- 2年生は「舟形町たんけん」を、各自のタブレットで写真撮影を行い、その記録を基に、まとめの授業を行っていた。
- 3年生は「火事になった時の対応」をタブレット内で情報共有し、一人一人の考えをタブレットで送りあいながら、授業を行っていた。
4. 今後の対応
- (1) タブレットを使った授業に関しては、教師、ICT支援員の指導により子ども達はスムーズに使いこなしていることに感心した。また学校として「タブレット活用ルール」も決めており、保護者、子ども達にも周知され評価します。
- <課題>
- ①タブレットを各家庭に持ち帰らせたとき、情報モラルやマナーで悪影響を与えないように、長時間使用ができないような制限が必要である。
- ②全ての家庭でネットワーク環境が整っていないため、タブレットを活用した教育活動を行う際に子ども達に不公平が出ないような対策を講ずるべきである。
- (2) 日本一のおいしい給食食育推進事業については、今年度も様々な取り組みを行っているが、ここ数年予算に対して事業の執行率が低下している。今後とも本来の目的である、地元食材を使って子ども達が「おいしい」と思えるような給食の提供を継続願いたい。



2年生のタブレットを使った授業